

博士（文学）学位請求論文審査報告要旨

論文提出者氏名	岩 本 篤 志
論 文 題 目	唐代の医薬書と敦煌文献
<p>審査要旨</p> <p>本論文は、中国・唐時代の医薬書の分析を通して、中国における医療制度の歴史的展開を考察した研究である。近年、医学史の分野の研究動向は、制度史とはやや距離をおく生活史としての「医療社会史」の視点に立つ研究が主流となりつつある。その反面、医療と国家・統治制度との関係については、東洋学の分野では研究の目が十分に向けられているとはいえない。本研究は、文献学の立場より、主として敦煌文献の分析を通して、医療と統治権力との関係を医学指南書の性格に注目して探求し、同時にそれら中国の知識が東アジアに伝播した諸様相をたどったものである。</p> <p>本論文は、第1部「北朝における医学制度」(全3章)、第2部「唐朝における医学制度と本草書」(全5章)、第3部「『日本』からみた敦煌文献研究」(全3章)の3部構成であり、合計11篇の論考からなる。それらの論考のほぼ半数は、査読付きの全国学会誌に発表したものである。</p> <p>第1部では、南朝出身者が北朝に本草(医薬)の知識をもたらし、それが北朝の医療制度に取り入れられ、それによって唐王朝の医療制度の基礎が形成される経過を明らかにする。その唐の医療体制とは、官制では太常寺「太医署」と殿中省「尚薬局」であり、医学指南書は第3代皇帝高宗の治世に勅撰で編纂された『新修本草』であるとする。</p> <p>第2部は、本論文の中核部分といえる。第4・5章では、中国および日本に伝わる敦煌文献『新修本草』序例巻(序文)の断片に注目し、その一部が接続する同一文書であることをつきとめ、この医薬書が唐初期の顕貴、長孫無忌を中心に編纂された書であるとする。第6章では、2種のスタイン文献(英国)が接続する同一文書であることを明らかにし、さらにそれをペリオ文献(仏国)とも比較して、それらはある行政文書の背面を2次利用して『新修本草』を書写したものであり、本来の表面文書の性質に着目して、敦煌文献中の『新修本草』の書写年代に8世紀前半という解答を与えた。第7章では、ペリオ文献「貝葉形本草書」を取り上げ、それが『新修本草』をもとにして、9～10世紀に敦煌の寺院で、薬物栽培のために作成された実用テキストの断片であると結論づけた。第8章は、前章までの考察で性格が明らかにされた、各地に伝存する敦煌文書『新修本草』の校訂テキストである。</p> <p>第3部は、敦煌文献に見える知識・習俗が、日本および後世の中国に及ぼした影響を考察する。上述の『新修本草』の一部が京都・仁和寺に伝わり、また鎌倉時代の『医家千字文注』に引用されるように、中国の知識・習俗が周辺諸国に思想的影響を及ぼした実例が、敦煌文献の分析によって確認できるからである。第9章は、『靈棋経』という占い書を取り上げる。その一部は、敦煌文献(ペリオ文書・スタイン文書)のほかに、日本の米沢市・東大図書館・狩谷掖斎本(現台湾・故宮所蔵)が確認され、この書による占いは、中国では明・清期まで、日本では室町時代まで、実際に行われていたという。第10章では、京都大学・旧「羽田記念館」(現「ユーラシア文化研究センター」)所蔵、写真No.766・767の『十六国春秋』が、中国の李盛鐸旧蔵文献の一部であり、『資治通鑑』編纂に依拠されたテキストの1つ、『燕書』の可能性が高いとする。第11章では、旧「羽田記念館」所蔵、写真No.768・769の「宵夜図并序」が、「庚申信仰」のサイコロ遊び「双六」文書の一部であるとする。</p> <p>本論文によって明らかにされた事柄は多岐にわたるが、特に重要な点をあげれば、以下のとおりで</p>	

氏名 岩本 篤志

ある。

唐の医薬書『新修本草』は、南朝・陶弘景『本草集注』をもとに、北朝の制度を踏襲した唐の採薬制度によって改訂されて編纂されたテキストであることを明らかにしたこと。

その『新修本草』は、当初の編纂目的は、唐王朝の支配領土内の各地特産品を都に集中させる土貢（貢献）制度に基づき、中央が採薬地を押さえて、そこに採薬指示を出すテキストとして編纂されたものであり、それが8世紀前半の医療制度整備によって医薬書として地方に配備され、敦煌にも伝わった経緯を解明したこと。

9～10世紀の敦煌では、その医薬書が薬草栽培マニュアルとしての性格を有するようになり、その薬草書の性格変貌のあり方を、専門知識が地方に普及し、それが周辺地域の民衆に受け入れられる一形態として描き出したこと。

特に、日本・中国・フランス・イギリスに分散する敦煌文献を実見し、些細な断片をも見逃さずに唐王朝の勅撰医薬書『新修本草』の復原と分析を行い、今は散逸したこの医薬書の思想的系譜と医療行政との関連性を明らかにした手腕は、高く評価される。本研究によって、わが国の仁和寺に『新修本草』の一部が伝わるように、この書物が実際に当時の東アジア諸国の寺院などで活用される姿を浮き上がらせることが可能となった。本研究によって、人と医療制度のあり方に関して、今後学界で議論が高まることは間違いないといえよう。よって本論文は博士（文学）に値するものと思われる。

公開審査会開催日	2009年 5月 14日		
審査委員資格	所属機関名称・資格	博士学位名称	氏 名
主任審査委員	早稲田大学教育・総合科学学術院 教授	博士(文学)早稲田大学	石見 清裕
審査委員	早稲田大学文学学術院 教授	博士(文学)早稲田大学	工藤 元男
審査委員	新潟大学人文社会・教育科学系 教授		關尾 史郎
審査委員			
審査委員			